

六甲山自然案内人の会

平成24年4月定例観察会報告書

作成 宮元

実施日 : 平成24年4月14日
コース : 六甲ケーブル山上駅(気温8℃)～ガーデンテラス
～旧極楽茶屋(昼食)～紅葉谷～ロープウェイ有馬温泉駅
テーマ : 新緑の紅葉谷から有馬
(植物観察、六甲山の地質と岩石)
天候 : 曇りのち晴れ
参加人数 : ビジター13名、会員30名、合計43名
配布資料 : コース地図、
カラーリーフ「六甲山 紅葉谷の植物
(ブナ・イヌブナの林)」

【観察記】

山上駅～ガーデンテラス～旧極楽茶屋(9:40～12:30)

霧雨が上がり出発。やはり春、足もとには「ハコベ」、ルーペで茎の毛を観察、一列に軟毛、ここが「ミミナグサ」との違い。上を見て「オオシマザクラ」の冬芽、葉の芽と花の芽はそれぞれに独立しているが、ほとんど同時に出てくる・・・六甲には少ない木。

「ミズキ」も若い枝は赤く、紫外線よけをまとっている。車道沿いの1本の太い「イロハモミジ」。これは昭和初期に道路が通った時、桜と交互に植えられた並木の名残りとのこと。この木も赤い新芽から1年分の葉(花)を今まさに吹き出そうとしていた。

あと1週間もすれば緑色に変わる。

六甲には自生しないが「エゾマツ」もみられた。・・・これはトウヒの仲間。葉をちぎると少し樹皮がついてはがれる。この樹皮の状態で「モミ」、「ツガ」と見分ける。

クスノキ科で良く似た葉の「シロダモ」と「ヤブニッケイ」が並んでいる所があり、葉のつき方で違いを再確認。

今年は「アオキ」の実が多く残っているので野鳥が少ないと話しているとヤマガラとシジュウガラのさえずりを聞く。そろそろ抱卵の時期とのこと。他にカケス、コゲラ、ソウシチョウ、ホトトギスの鳴き声を聞く。

その他の観察した植物

- ・イヌツゲ 別名、ヨメノサラ・・・ヨメとは「夜目」=鼠のこと
- ・サルナシ キュウイの原種・・・ニュージーランドで品種改良あれた。
鳥の名前の元。
- ・タンナサワフタギ タンナは濟州島のこと。
- ・ヤマナシ ナシの原種。・・・美味しくない。
- ・ホツツジ ツツジ科で季節の最後に咲く。
- ・リョウブ 冬芽は2個ずつついて、上と下に伸び、シカの角のような
枝振りになる。
- ・ヤマヤナギ 雄花が咲いていた。
- ・オオバヤシャブシ 全体でみると雄花と雌花はほぼ同時期に咲く。
1本の木では少しずらせて咲く（雄性先熟）
- ・アキグミ、ナワシログミ
- ・ドウダンツツジ 六甲の自生はベニドウダン。灯台が名の由来。
- ・ウリハダカエデ、ウリカエデ 樹皮がマクワウリの果皮に似ている。
- ・ミツマタ、キブシ 満開。
- ・アセビ、ムラサキシキブ、ナナカマド 等。

旧極楽茶屋～ロープウェー有馬温泉駅（13：00～15：40）

六甲山の中で最もバラエティに富んだコースである紅葉谷へ。スタートすぐに「ミヤマシキミ」の赤い実を観察。

少し降りると巨木「ブナ」が出現、樹皮は灰白色でなめらか。ここのブナは株立ちも多い。

落ち葉で葉脈の観察、不思議の側脈の先端はへこんでいる。「イヌブナ」側脈の和は多いがブナを同じ形。

シデ類 3種。「アカシデ」・・・ごつごつした木肌（老木）、「クマシデ」・
・灰色で立てに縞の木肌、「イヌシデ」・・・樹皮は灰色でたてにはっきりとした黒い筋が入っている。

「ミヤマハハソ」の冬芽観察。

「トチノキ」の冬芽も粘液を出して防寒状態。

その他の観察した植物

エゴノキ、カヤ、イヌガヤ、ヤマボウシ、ウラジロノキ、ツノハシバミ、シラキ、ヒメヤシャブシ、シキミ、ハナネコノメソウ、シロバナシヨウジョウバカマ、カンスゲ、ヒメカンスゲ 等。

観察会スナップ

